

# 日本の祭り



はるか昔から、その土地に根付く歴史や伝統、文化や想いを形にした「日本の祭り」。  
日本古来より伝承された芸術と技能を感じに行こう。

さあ、出かけよう！  
伝統と心を繋ぐ祭りへ

この冊子の内容は右記のホームページからご覧になれます。地域伝統芸能活用センター <http://www.dentogeino.or.jp>

この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。



# 日本の魂をつなぐ、祭りと伝統芸能 歴史と伝統の継承。

地域伝統芸能賞受賞祭事を中心に選出しています

実施日 毎年7月31日  
今年は7月31日(月)



富山県滑川市 滑川のネブタ流し

実施日 毎年7月28日  
今年は7月28日(金)



熊本県阿蘇市 御田植神幸式

10 7月 御田植神幸式 P6

実施日 毎年7月16日・17日  
今年は7月16日(日)・17日(月)



徳島県海陽町 穴喰祇園祭

8 7月 滑川のネスタ流し P5

3 5・6月 金浦のひったか・おしぐらんご P3

実施日 毎年6月の第2土曜日  
今年は6月10日(土)



神奈川県横須賀市 浦賀虎踊り

2 5月 草津のサンヤレ踊り P3

9 7月 穴喰祇園祭 P5

実施日 毎年7月22日~24日  
今年は7月22日(土)~24(月)



福島県南会津町 会津田島祇園祭

5 7月 恐山大祭 P4

6 7月 会津田島祇園祭 P4

7 7月 若神子のほうとう祭 P5

1 5月 武蔵府中の太鼓講 P3

4 6月 浦賀虎踊り P4



## 目次

- 日本各地の祭り・伝統芸能分布図 .....P1・P2
- 1 武蔵府中の太鼓講 .....P3
- 2 草津のサンヤレ踊り .....P3
- 3 金浦のひったか・おしぐらんご .....P3
- 4 浦賀虎踊り .....P4
- 5 恐山大祭 .....P4
- 6 会津田島祇園祭 .....P4
- 7 若神子のほうとう祭 .....P5
- 8 滑川のネブタ流し .....P5
- 9 穴喰祇園祭 .....P5
- 10 御田植神幸式 .....P6
- 地域伝統芸能活用センターよりお知らせ .....P6

東京都府中市 武蔵府中の太鼓講

毎年5月3日～5月6日  
今年は5月3日(水・祝)～6日(土)



社の広い信仰を基に、村と村、人と人のつながりを通じて出来上がった講中は、現在まで脈々と受け継がれています。昭和54年に12月に「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に指定されました。



アクセス

電 車：京王線「府中駅」または  
JR武蔵野線・南武線「府中本町駅」より徒歩約5分

大國魂神社ホームページ

<https://www.ookunitamajinja.or.jp/>

### 伝統と格式を誇る大太鼓の曳行は圧巻

大國魂神社は昔より崇敬者が非常に多く、関東一帯にわたります。毎年5月5日の例大祭には夜間八基の神輿が古式の行列を整え、闇夜に御旅所へ渡御するので、俗に府中の「くらやみ祭」といわれ、現在では神輿渡御は夕刻(午後6時)より行われています。「くらやみ祭」は武蔵国の国府祭で、およそ1000年以上の歴史があり、形を変えながらも江戸時代には現在の形になったと言われます。「くらやみ祭」で特徴的なものが、日本最大級の大太鼓である御先払太鼓をはじめとする6張の大太鼓です。これは神輿の道を祓う役目の太鼓で、地響きのような音を鳴らして町内を巡行します。6張の太鼓はそれぞれ別の町が講中となって管理をしており、講中の人々は府中在住または近郊の氏子を中心に、かつての武蔵国といわれた地まで範囲は広がります。太鼓講の始まりは幕末には組織されていたと考えられ、明治以降に講中の数も増えていきます。武蔵総社である大國魂神

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

滋賀県草津市 草津のサンヤレ踊り

毎年5月3日  
今年は5月3日(水)



岡山県笠岡市 金浦のひったか・おしぐらんご

毎年旧暦5月5日に近い土・日曜日  
今年5月27日(土)[ひったか]・28日(日)[おしぐらんご]



### 中世末～近世初頭の風流囃子の流れを組む、古風な伝統の踊り

草津のサンヤレ踊りは、琵琶湖の南に位置する草津市に分布するも民俗芸能で、草津市内7箇所(草津市下笠町、矢倉、志那町、志那町吉田、志那中町、片岡町、長束町)で5月3日に行われています。この踊りは、少年や青年などが楽器を持って簡単な踊りを行い、その周囲を笹や扇子などの採り物を持った者がこれを取り囲み囃し歌うもので、リズムカルに短い詞を繰り返す歌詞の中に「サンヤレ」という囃子詞があることから、これが踊りの名称となっています。踊り場の中央では、太鼓受けが太鼓を持って逃げるようにして太鼓打ちが追いかけて打つ様子が特徴的なものです。この踊りは、室町時代後期から近世初期にかけて全国的に流行を見た風流囃子物と楽器編成などが類似するなど、古風を伝える民俗芸能といえます。

※平成29年度は「長束のサンヤレ踊り」は開催されません。



アクセス

【矢倉のサンヤレ踊り】 電 車:JR「草津駅」東口よりバス約10分、  
最寄りバス停(白母川新橋)下車、徒歩約10～15分  
【志那のサンヤレ踊りほか】 電 車:JR「草津駅」西口よりバス約15～20分、  
最寄りバス停(北大萱、片岡、下出)下車、徒歩約10分

草津市教育委員会 文化財保護課  
お問合せ先 電話:077-561-2429 FAX:077-561-2488

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。  
お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

### 提灯で絵模様を描く火祭りとおしぐらんご

「ひったか」は、提灯で絵模様を描く祭りです。川をはさんで東にある行者山(源氏方)と西にある妙見山(平家方)の中腹に、それぞれ約10メートル四方の木枠を組み、約300～400個の提灯を吊して絵模様を浮かび上がらせ、双方で絵柄を競い合います。どんな絵柄が登場するかは当日まで秘密にされます。「おしぐらんご」は、海で2艘の和船が競漕する行事です。源氏方(白)と平家方(赤)に分かれて、それぞれの和船に6人ずつ乗り、先を競い合います。金浦はかつて漁業が盛んで、勝てば1年間豊漁といわれていました。どちらも源平合戦に由来する行事と伝えられ、笠岡市の重要無形民俗文化財に指定されています。もとは旧暦5月5日、端午の節句の行事でしたが、現在ではそれに近い土曜日の夜にひったか、翌日曜日の昼の満潮時におしぐらんごを挙行政します。



アクセス

電 車：JR山陽本線「笠岡駅」より徒歩約30分  
車：山陽自動車道「笠岡IC」より車約10分

笠岡市ホームページ

<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/soshiki/28/>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。  
お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

神奈川県  
横須賀市

うら が とら おど  
**浦賀虎踊り**

毎年6月の第2土曜日  
今年は6月10日(土)

実施日



### 海外舞踊の組み踊り様式が見られる、唐子踊り

「浦賀虎踊り」は享保5(1720)年に伊豆下田の奉行所が浦賀に移された時、ともに移り住んだ町人によって伝えられたといわれています。

毎年6月に行われる地元の鎮守である為朝神社の祭礼に合わせ、祭り前夜に神社の境内に舞台を作って奉納しています。

虎は親子二体で、虎のかしらは本邦880社の神符を貼って作られ、親虎には青年、子虎には子どもが二人ずつ入り、笛や太鼓に合わせて動きます。

地で保存・継承されていく中で昭和37年に浦賀虎踊り保存会が発足しました。のちに神奈川県無形民俗文化財に指定され、平成16年には「野比中村の虎踊り」とともに「横須賀の虎踊り」として国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択されました。

「虎踊り」は近松門左衛門作の人形浄瑠璃「国姓爺合戦」の主人公、和藤内の虎狩りを題材としており、唐子による「唐人踊り」、虎による「虎芸」、和藤内による「虎退治」で構成され、約20分の一幕仕立てで上演されます。

※実施日・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



アクセス

電車：JR京浜急行「浦賀駅」又は「京急久里浜駅」より、バス[久10]で「紺屋町」下車徒歩、約10分又はバス[久19]で「西浦賀町4丁目」下車、徒歩約2分

横須賀市ホームページ

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/8120/bunkazai/ken08.html>

青森県  
むつ市

おぞれ さん たい さい  
**恐山大祭**

毎年7月20日～24日  
今年は7月20日(木)～24(月)

実施日



### 霊場として名高い恐山で行われる、イタコの口寄せが有名

日本三大霊場に数えられる恐山は、貞観4年(862年)に天台宗慈覚大師円仁によって開山されたといわれています。風車がカラカラと回り、荒々しい岩場の合間から硫黄の臭いが立ちこめる様子は「地獄」に、そこを抜け、一面に広がる美しい湖と白砂の浜は「極楽」に見立てられています。

毎年7月20日から24日まで行われる恐山大祭では、亡くなった人や、早世した子供達の供養を行う「大施食(だいせいじき)法要会(くようえ)」や、22日には僧侶、先達をはじめ婆々講、念仏講の信者などが同行する籠行列である「上山式(じょうざんしき)」、22日から24日までは祖先や新しく仏となった人々への供養や、家内安全、無病息災を祈願する「大般若(だいはんや)祈祷(きとう)」が行われ、期間中は多くの参詣者で賑わいます。

また、境内ではイタコの口寄せが行われており、死者の霊を呼び出し、その声を聞くために遠方からもお客様が訪れています。

※実施日・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



アクセス

電車：JR大湊線「大湊駅」より車約30分  
バス：JR大湊線「下北駅」より恐山行き直通バスで約43分

恐山寺務所

お問合せ先 0175-22-3825

福島県  
南会津町

あい づ た じま ぎ おん さい  
**会津田島祇園祭**

毎年7月22日～24日  
今年は7月22日(土)～24(月)

実施日



### 800余年の歴史をもつ、日本三大祇園祭のひとつ

毎年7月22日、23日、24日に行われる「会津田島祇園祭」。

日本三大祇園祭のひとつに数えられ、800年の歴史があります。どぶろく祭、ふき祭とも称される会津田島祇園祭は、お党屋制度によって保存され、現在9組のお党屋組が1年間党本を支えて祭事を担当します。10年目に巡ってくる当番お党屋を中心に、前年のお党屋組である「渡し」と、翌年のお党屋組の3組が繰り広げる祇園祭は1年がかりの大行事。伝統の民俗を守り続けて、昭和56年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

見どころは、22日、23日の夕方から行われる「子供歌舞伎」の熱演、4台の大屋台が繰り広げる迫力満点の「喧嘩屋台」、そして23日早朝に行われる「七行器(ななほかい)行列」です。七行器行列は別名花嫁行列とも呼ばれ、毎年40人前後の花嫁衣裳を身にまとった未婚女性達が街中を歩きます。その姿を一目見ようと毎年多くの見物客やカメラマンが祇園祭に押し寄せます。花嫁達が神社に向かう姿は厳かで美しく、まさに豪華絢爛です。ぜひお越しください。

※実施日・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



アクセス

電車：会津鉄道「会津田島駅」より徒歩約1分  
車：東北自動車道「那須塩原IC」より車約60分

南会津町ホームページ

<http://www.kanko-aizu.com/>

山梨県北杜市 若神子のほうとう祭

毎年7月の最終土曜日  
今年は7月29日(土)

実施日



### 虫送りの火焚き行事と郷土食「ほうとう」を味わう

この「ほうとう」は「小豆ほうとう」で、所謂お汁粉を食べる習慣が始まった江戸中期1750年ころから始まったと伝わります。大物主を祭神として祀り逸見筋の総鎮守である三輪(みわ)神社の夏の例大祭で、旧暦の6月30日現在では7月の最終土曜日の夜執り行われる祭りです。神事後、参拝者は神殿にお参りして神紙を受けると、自身の体を拭い、等身大の藁人形の腹掛けに神紙を入れ、厄を移します。振舞われる「小豆ほうとう」を、境内で焚かれたたき火(ここから「どんでん火」とも呼ばれる)を囲んで食べます。昔から田植えが終わったころ害虫除けを祈願して行われる虫送り行事がベースで、農作業で疲れ傷んだ身体を厄をふき取り藁人形に託した厄払いの行事が合体した祭りで、当時は貴重な甘い「小豆ほうとう」を食べて、体力の回復と五穀豊穡を祈願する夜祭です。昔は、祭の夜各家庭で作り食べられていましたが、食文化の変化と共に三輪神社から振舞われる様になり、傷んだ体の厄を託された藁人形は須玉川に流されましたが、環境保全の面からどんでん火でお焚きあげられるなど、時代の変化と共に祭事も変わってきました。

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



#### アクセス

電車：JR中央線「長坂駅」下車、  
市民バス南部巡回線で「JA須玉支店」下車、徒歩約5分  
車：中央道「須玉IC」よりR141号線北上車約5分

北杜市観光協会ホームページ  
<http://www.hokuto-kanko.jp>

富山県滑川市 滑川のネブタ流し

毎年7月31日  
今年は7月31日(月)

実施日



### 無病息災を祈願する火と水の禊ぎの祭り

ネブタ流しは、明治9年(1877)日本政府のお雇い外国人で地質学者のエドムント・ナウマン博士の目撃記録が、今のところ最も古いものです。これは、日本海側南限のネブタ流しで、古い形態を今に伝える行事として平成11年国重要無形民俗文化財に指定されています。

7月31日の夕刻、海中で燃え上がる大たいまつ11基から若者に火の粉が降りかかると、怒号と悲鳴が飛び交います。高さ6mの大松明には色とりどりの短冊、茄子や胡瓜に目鼻を刻んだ人形(ひとがた)、息を吹きかけた紙の形代(かたしろ)が賑やかに飾り付けられ、眠気をはじめとした穢れや疫病送り、虫送り、豊作祈願、迎え盆の要素を見ることができます。燃え尽きると行事は終了となります。当地では夏越祓いの影響を受け、火と水による禊ぎが強調されています。この日髪を洗うと風邪を引かないとの伝承もあります。かつては藁を家々から少しずつ集めたものを使用し、「ネブタナガサレ、アサオキヤレ」と唱え言を唱和しながら家々を回ったそうです。行事の主体は男性から、今では親子参加、学校や公民館単位での参加も増えつつあります。



#### アクセス

電車：あいの風とやま鉄道「滑川駅」より徒歩約5分

滑川市立博物館ホームページ  
<http://www.city.namerikawa.toyama.jp/museum/index.html>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

徳島県海陽町 穴喰祇園祭

毎年7月16日・17日  
今年は7月16日(日)・17日(月)

実施日



### 勇壮な山鉦や美しい関船が練り歩く、日本三大祇園の一つ

日本三大祇園の一つと言われる八坂神社の祇園祭は、毎年7月16日の宵宮(ヨイミヤ)と7月17日の本宮(ホンミヤ)に行われます。16日に金幣(キンベイ)・鷲住(ワシズミ)・商人(アキンド)と呼ばれる3つの組のダンジリと関船が神社に練り込み、夜には花火が打ち上げられます。17日は神社で例大祭式、獅子舞・八橋・先槍などの伝統芸能を披露し、神輿と共にお浜出があります。

その後もち投げが行われ、ダンジリが町を練り歩きます。また、二層吹抜の青シバで屋根を葺いた大山・小山と呼ばれる2台の山鉦(山車)も組み立てられ、大山鉦の曳き手には女装した青年も加わります。この山鉦は京都の祇園祭りの原型を受け継いでいるとも言われています。



#### アクセス

電車：阿佐東線「穴喰駅」より徒歩約5分  
車：国道55号より車約5分

海陽町観光協会ホームページ  
<http://www.kaiyo-kankou.jp>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

熊本県  
阿蘇市

# お た う え し ん こ う し き 御田植神幸式



実施日

毎年7月28日  
今年は7月28日(金)

## 年々の豊作を祈って行われる、阿蘇の農耕祭事

通称「おんだ祭」と呼ばれ、神輿に向かって稲を投げ上げることを「田植え」と称し、秋の豊穰を願い神幸が行われる阿蘇神社最大の祭事で、毎年7月28日に行われる国指定重要無形民俗文化財「阿蘇の農耕祭事」の一行事です。

神幸式では神々に乗る4基の神輿を中心に、田男・田女・牛頭などの農耕に因んだ人形等、神々の食事を運ぶ役を担った全身白装束の「宇奈利(うなり)」と呼ばれる女性達、総勢約200人の行列が構成されます。行列は神社を出発して青田を練り歩き、2カ所のお仮屋(行宮所)を経て再び神社に戻る行程をめぐる。この間、約半日をかけて駕輿丁(かよちょう、神輿を担ぐ人たち)が御田歌を謡いながら遅々と進んでいきます。御田歌は、かつての田植歌が芸能化したものと考えられており、その歌詞は世情や風俗をよく表現し多岐に及びます。

祭りの起源は不詳ですが、鎌倉末期にはその存在を確認できます。

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



アクセス

電車：「肥後大津駅」より代替バスを利用、宮地駅下車、徒歩約15分  
※JR豊肥線は熊本地震により不通  
車：九州自動車道「熊本IC」より、国道57号線ミルクロード経由約80分

阿蘇神社ホームページ  
<http://asojinja.or.jp/>



## 「まつりーと」が、あなたの町のお祭りを 元気にするお手伝いをします!

たとえば、こんなことにお困りでしたら、ぜひご登録ください。

- 祭り参加者をスムーズに集めたい
- 祭りの担い手が少なくなり、他地域から参加者を募りたい
- 他地域からの祭り参加者を増やして、町を活性化させたい

### 「まつりーとサイト」で出来る事

- 参加者の募集  
祭りへの参加者を募集するため、募集情報を掲載することができ、参加希望者からの情報は、メールにて受け取る事が出来ます。
- 祭り情報、周辺観光情報の掲載  
祭りを広く周知するため、祭り情報も掲載することができます。その他、周辺の観光情報等を掲載でき、いつでも更新することができます。

# <http://matsuri-sanka.net>

まつりーと事務局(一般財団法人地域伝統芸能活用センター)  
TEL . 03-5809-3782 E-mail : support@matsuri-sanka.net

人とまつりと地域をつなげる

## まつりーと

まつりーと



# 宝くじは、みなさまの豊かな暮らしに役立っています。



点字本レシピ集



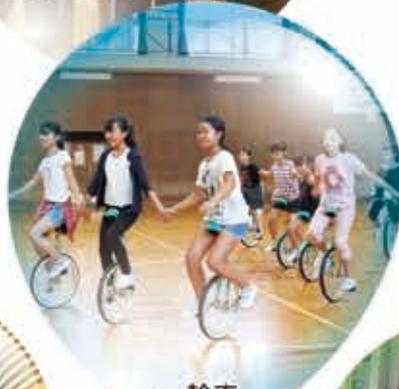
冊子  
「フラッグフットボール作戦ブック」



ベンチ



さくらの若木植栽



一輪車



パブリックアート



冊子  
「おやこの食育教室  
(三角巾付)」



胸部X線検診車



宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、  
 少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、  
 さまざまなかたちで、みなさまの暮らしに役立っています。

一般財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や  
 公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人  
**日本宝くじ協会**  
<http://jla-takarakuji.or.jp/>



平成29年2月27日発行(年4回発行) 発行所 一般財団法人地域伝統芸能活用センター 〒110310004 東京都中央区東日本橋二丁目24番12号 東日本橋横町ビル5階 TEL:031580913782  
 ホームページアドレス: <http://www.dentogeiho.or.jp> 制作印刷 株式会社創基 〒110010014 東京都千代田区永田町2-4-11フレンドビル TEL:031525110010